

西洋美術史ゼミ第十回補足資料

語釈

- 聖年

カトリック教会において、「ローマ巡礼者に特別の赦し」を与えるとした年。ボニファティウス 8 世が 1300 年に定めたのが始まりで、1400 年以降は 25 年ごとに聖年とされた。

発表の補足

- 17～18 世紀の哲学

この時代は哲学において多くの展開が見られた。経験論、合理論、啓蒙思想、ドイツ観念論といった思想がその成果である。

1. 経験論

ベーコンに始まり、ロック、バークリー、ヒュームに継承された経験論であるが、その立場は**経験によって真理を発見しようとする**というものであった。ベーコンは「**知は力なり**」と述べ、自然を正しく把握することにより自然を支配し、生活をよりよいものに行おうとした。ロックは「**人間の心は白紙（タブラ・ラサ）である**」と述べ、人間が生まれながらにして備わる知識である生得観念を否定した。バークリーは「**存在するとは知覚されること**」といい、物質は人間の知覚を離れては存在しえないことを主張した。ヒュームは、「**自我は知覚の束**」と言い、出来事の間関係は観察者が作ったものではないとして因果関係を否定した。

2. 合理論

デカルトを祖とする合理論は、真理を生得観念と理性に求める立場である。**デカルト**は演繹法を唱え、すべての人間に理性が備わっているので、順序良く考えれば心理に到達できると言った。そして、その演繹の出発点を「考えることのできる自分自身」とした（「**我思う、ゆえに我あり**」）。また彼は**物心二元論**を唱え、精神を認識する主体、物質を認識される客体とした。デカルト以降の合理論は二元論を修正する方向で展開し、主な哲学者として汎神論（万物が神そのものである）を唱えた**スピノザ**と、万物は単子という最小単位からできるという単子論を唱えた**ライプニッツ**がいる。

3. 啓蒙思想

「啓蒙」とは蒙を啓くと書き、理性の力で人々を無知蒙昧から解放することを意味する。啓蒙思想家の代表格といえるのが**ヴォルテール**であり、絶対王政やローマ教会を批判し寛容の精神を説いた。また、啓蒙思想の産物として知られるのが**ディドロ**の『百科全書』である。ここには当時の先端科学や政治思想が掲載された。

4. ドイツ観念論

観念論は精神的なものを重視する思想であった。ドイツ観念論を代表する哲学者としてカントがおり、彼の哲学は批判哲学と呼ばれた。カント哲学には多くの意義があるが、最も重大な点は経験論と合理論を統合したことである。

参考文献

1. Beeldenstorm, Wikipedia, 2022 年 4 月 3 日, <https://en.wikipedia.org/wiki/Beeldenstorm>
2. 聖年, Wikipedia, 2022 年 4 月 21 日, <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%81%96%E5%B9%B4>
3. 心身（物心）二元論とは？例や問題点をわかりやすく解説, 国語力アップ.com, 2022 年 4 月 21 日, <https://kokugoryokuup.com/nigenron-meaning/>